

営農 担い手

営農戦略室人事異動について

R6.11月28日に人事異動がありましたのでご報告いたします。詳細については以下の表の通りになります。ご不便おかけしますがよろしくお願いいたします。



前営農・担い手支援担当次長
柴田朋憲

急なご報告で恐縮ですが、この度11月28日付人事異動により、奥能登営農復旧・復興担当となりました。

直接ご挨拶すべきところ、書面でのご報告となります事、お詫び申し上げます。

皆様には着任以降大変お世話になりました。ありがとうございました。

以降の業務は室長の中村が担当します。

今後も引き続きよろしくお願いいたします。

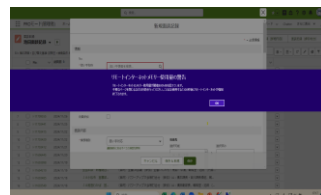
氏名	新	旧
中村理	JAグループ石川営農戦略室長(兼営農・担い手支援担当次長事務取扱兼園芸振興担当次長事務取扱)	JAグループ石川営農戦略室長(兼園芸振興担当次長事務取扱)
柴田朋憲	JAグループ石川営農戦略室業務担当次長(奥能登復旧復興担当)	JAグループ石川営農戦略室営農・担い手支援担当次長

営農 担い手

担い手営農サポートシステム(NEサポシステム)



8月にもEメール等でもご案内しておりますが、当システムを「リモートインターネット」から利用した場合、“使用量の警告”が頻発する(左記画像参照)との問い合わせが多数ありました。



その改善策として「Microsoft Edge」から利用できるようになっております。NEサポシステムに直接アクセスができる「Microsoft Edge」のショートカットもございますので、必要に応じて戦略室までご連絡ください。





11月21日(木)～22日(金)に新横浜プリンスホテルにて、「TAC・出向く活動パワーアップ大会2024」が開催されました。

大会1日目は、TAC表彰に係るTAC部門・JA部門の最終審査と表彰式のほか、JAそお鹿児島の先進取り組み紹介がありました。本県からは、TAC部門で地区別優秀賞をJA金沢市・山口氏が受賞され、本県からの連続受賞は“10年”となりました。大会2日目には、事例発表が行われたほか、テーマごとに分かれての分科会やNEサポシステムの活用紹介などが行われました。

大会を通じ、優良な事例・取り組みの情報共有や他県の担当者との交流・意見交換などができ、TAC活動の更なる活性化へ向け貴重な機会となりました。



TAC活動における体制構築や人材育成の手法・取り組みなどの情報収集を主な目的として、「TAC出向く活動パワーアップ大会」の参加者と「JAグループ神奈川」との情報交換会を実施しました。

神奈川では、タブレット活用による担当者間連携・情報共有や品目部会に特化した訪問活動などJAごとに特色ある体制を取り、目的を明確にした活動を行っていることや、県域では技術的な知識・スキル習得に向けた研修を充実させていることなど、大変参考となる話を聞くことができました。





11/11(月)～22(金)までの10日間、JA加賀にて農協観光が仲介役として取り組んでいる「援農ボランティア」の受入を行いました。

参加者は前半6名、後半5名の計11名で、作業は午前中は、JA加賀管内の農家さんのもとに向かい、ブロッコリーの収穫作業、午後はJA加賀野菜出荷施設にてブロッコリーの選別作業を行いました。

参加者の方からは、「いつもと違う環境で働くことができリフレッシュできた」や「実際に現場に出て、とても勉強になった」などのお声をいただきました。

また、JAや生産者の方からも繁忙期の労働力を確保できたので助かったとの声をいただきました。

今後も参加者の農業体験が現地の労働力に活かされるようマッチングに努めていきます。



11月29日(金)スパークル法律事務所 大城 章顕氏(弁護士・カリフォルニア州弁護士)を講師に招き、「農業の事業承継を法務の視点から学ぶ」をテーマとして、研修会を開催しました。

農業の事業承継の類型や農業の事業承継における相続、法人化、M&Aにかかる法務面での留意事項等について、講師がこれまで対応してきた事例を用いての説明・解説がなされ理解しやすい内容となりました。



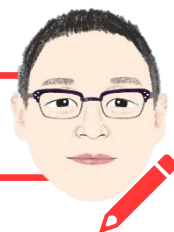


(株)AGIC白川講師をお招きし、11/18・19にGAP指導員研修会、11/20にGH農場評価員試験をJA石川県教育センターにて開催しました。

研修会および試験は以下のスケジュールで開催しました。

11/18(月)	11/19(火)	11/20(水)
「GAP実践セミナー」 ・持続可能な農業とGAPの正しい理解 ・GAPの実践と指導のための農場評価の方法 ・「国際水準GAPガイドライン」の内容と指導方法	「農場実地トレーニング」 ・農場管理における適正管理の詳細 ・農場の管理実態を正確に把握するための調査・監査の技量(現場での視点・着眼点)	「GH農場評価員試験」 A: 筆記試験 B-1: 実技試験(GH評価レベル判定など) B-2: 実技試験(聞き取り質問策定など)

今後もGAPの視点から石川県の食と安全を守っていくため、研修会を適宜開催いたしますのでご参加の程よろしくお願いいたします。



11月25日(月)に、石川県立大学との産学連携の取り組みの一環として、今年度初めて出前授業を実施しました。生産科学科2年生の生物資源経済学(担当:住本准教授、受講生34名)の後期授業16回のうち第7回目(90分)で行い、「石川県農業とJA組織の概要」について講義しました。

講義では、パワーポイント資料と石川県農業の統計資料を使い、①石川県の農業、②改正食料・農業・農村基本法の概要、③JAグループの組織・事業について理解を深めることを学習目標に行いました。

各学習項目の導入部分に関連クイズを行ったこともあり、受講生は適度な緊張感のもと真剣に授業を聞いており、国消国産の取組や採用活動について紹介したこともあり、受講生のアンケートでは「JAグループの事業や取組に興味がある」、「就職先として関心がある」との回答が多く寄せられました。



11月13日(水)に、JA農産物直売所の食育ソムリエの方などを対象に標記料理教室を開催しました。

地元食材を身近に感じてもらうことのできる直売所を目指し、食材の魅力や調理法をわかりやすくかつ簡単に説明することで、来客者の食を豊かにすること・県産農畜産物の消費拡大につなげることを目的としています。

参加者からは、「思っていたよりも簡単でびっくりした」や「素材の味が際立つレシピを学べた」、「直売所でお客様にも説明できそう」などの声が聞かれました。JAグループ石川では、「国消国産」・「地産地消」の周知に向けて、今後もこのような取り組みを継続してまいります。



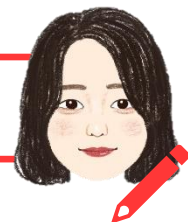
11月20日(水)に、県内の直売所における課題解決や情報発信等を進めることで、直売所の活性化に資することを目的として、標記会議を開催しました。

会議では、品揃え対策としての県外産青果物の流通(県間流通)に係る試行結果や、県内産産直品の直売所間流通(県内流通)にかかるスキーム案等を提示し、活発な意見交換が行われました。

農産物直売所連絡協議会では、今後も県内直売所の活性化に向けた取り組みを継続してまいります。

【県外産青果物の流通(県間流通)に係る試行結果】

提案日	品目	注文店舗	数量
① 10/28	極早生みかん(めっけもん広場)	まいどさん市場(松任)	100kg
		おおぞら村 輪島(のと)	100kg
		おくのといち(内浦町)	30kg
② 11/13	早生みかん(めっけもん広場)	まいどさん市場(松任)	100kg
		グリーンかほく(かほく)	100kg
		わかばの里(能登わかば)	500kg
		おおぞら村 輪島(のと)	50kg
		おくのといち(内浦町)	50kg



JAグループ石川では、JA全中がJAタウンで行った「送料無料キャンペーン」の期間を、県内対象商品に限り延長する取り組みを実施します。

期間中、JAタウン石川県「かが・のと味自慢」内の対象商品の送料を戦略室が負担するもので、対象商品には、「ひやくまん穀」や「能登牛」など各種農畜産物や、地酒を含む加工品が並んでいます。今後とも、石川県産農畜産物の消費拡大や食料自給率の向上を目指してまいります。



詳しくはJAグループ石川のHPでバナーをクリック！

※総額50万円相当で、上限に達し次第終了

アップカッターロータリーによる碎土率向上の検証



11月上旬にJAののいち管内のたまねぎ圃場にて畝立て作業を実施いたしました。2種類のロータリーを使用して畝立てを行ったところ、「アップカッターロータリーを使用した畝」の碎土率が明らかに向上していることが確認できました。たまねぎ以外の品目においても、苗の活着を良好にするために碎土を細かくすることは非常に重要です。この結果を周知し、引き続き各品目の単収向上に取り組めます。

【慣行区】

通常の正転ロータリー



【試験区】

アップカッターロータリー



碎土率UP！

～12月の予定～

日 時	内 容
12月25日（水）	県知事への農業予算要望
12月26日（木）	ういずOne総括会議

【お問い合わせ先】 J Aグループ石川営農戦略室 関谷
TEL：076-240-5052 FAX：076-240-9120

